

第2回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 平成31年2月27日(水)
開会 13時30分
閉会 14時55分

2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員(7名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	早 川 芳 子
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	高 村 政 博
	担当部長(兼)教育総務課長	加 藤 弘 行
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	中 西 賢 治
	担当部長(兼)学校職員課長	羽 場 政 彦
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	田 村 創
	担当部長(兼)学校指導課長	新 村 裕 二
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	村 田 昌 人
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭
	生涯学習部長	鳥 倉 俊 雄
	生涯学習課長(兼)家庭教育振興室長	藤 木 由 里
	図書館総務課長	村 田 英 彦
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長、城北分館長	
	玉川こども図書館副館長	池 田 光 穂
	教育プラザ総括施設長(兼)地域教育センター所長	松 本 季 之
	研修相談センター所長	熊 谷 有 紀 子
	歴史都市推進課長	水 由 謙 一

5 案 件

議案第2号	金沢市小中一貫英語教育のさらなる推進に向けて	(学校指導課)
議案第3号	金沢子ども読書推進プラン2019について	(図書館総務課)
議案第4号	2019年度 金沢市教職員研修の基本方針(案)について	(教育プラザ)
非 議案第5号	金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員の委嘱について	(歴史都市推進課)
報告第4号	統合小学校の校章、校歌等について	(教育総務課)
報告第5号	特別支援教育サポートセンター(仮称)整備基本方針について	(教育総務課)
報告第6号	金沢市学校給食費懇話会の検討状況について	(教育総務課)

報告第7号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果（平成30年度10～12月分）について（学校職員課）

報告第8号 金沢市立玉川こども図書館の休館について（図書館総務課）

その他

（1）平成30年度金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について

（2）次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者6名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員に丸山委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第5号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第2号、議案第3号、議案第4号、報告第4号、報告第5号、報告第6号、報告第7号、報告第8号、その他（1）について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、3月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第5号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 3月の定例会議の日程：平成31年3月27日（水）13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第2号 金沢市小中一貫英語教育のさらなる推進に向けて（学校指導課）

（説明の概要）平成29年5月に金沢市小中一貫英語教育検討委員会で諮問し、検討を進めてきた、小中一貫英語教育のさらなる推進に向けた答申が別添資料のとおり、2月25日に提出されたので、その概要について説明する。

まず、検討の背景と経緯についてである。本市においてはこれまで、全国に先駆けて小学校の英語教育を推進してきたが、2020年度より全面実施となる新学習指導要領には小学校5・6年生において年間70単位時間の外国語科、小学校3・4年生においては年間35単位時間の外国語活動の実施が示された。そこで、これまでの小中一貫英語教育の成果と課題の検証を行い、今後の本市の方針を示すとともに、その実践に必要な時間割編成、教材、指導体制等の具体事項について検討を行ってきた。

次に、基本的な考え方である。これまでの実践を通して本市の教師が身に付けてきた指導力や小中学校のつながりなど、本市の英語教育の優位性を新学習指導要領実施以降も担保することを基本方針とし、「国の標準授業時数を上回る授業時数の設定」「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指した指導体制の構築」「金沢らしさを生かした指導内容の設定」「中学校外国語科の指導の充実」の四つの方向性によって、さらなる推進を図っていく。

その具体的な方向性について、4点を示している。1点目の「国の標準授業時数を上回る授業時数の設定」については、全ての学年で実施してきた週1回程度のショートタイムを今後も継続して行うこととする。そのショートタイムの分だけ、国の標準時数を上回るように設定する。

2点目の「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指した指導体制の構築」では、具体的には小学校3～6年生の45分授業については原則、学級担任と英語インストラクター、または学級担任もしくは英語専科の先生とALTとのティームティーチング（TT）指導を基本として実施し、ショートタイムについてはこれまでどおり学級担任の単独指導としている。引き続き国の動向等を注視し、本市としてより効果的な指導体制の在り方を追求していく。

3点目の「金沢らしさを生かした指導内容の設定」については、今後も金沢のまちに愛着と誇

りを持ち、まちづくりの担い手を育むことを目的とし、授業においてはALT等の外国人と実際にコミュニケーションを図る機会を設定していく。また、金沢市独自の副読本や補助教材の活用も行う。

4点目の「中学校外国語科の指導の充実」については、中学校においてこれまで以上に小学校の学びを生かした指導の充実を図ること、中学校区ごとの授業参観や授業研究会の開催を今後も継続して行う。

この案をお認めいただけたら、来年度当初に各学校に通知し、2020年度からの実践に向けて準備を進める。

野口教育長

平成29年7月からこの検討委員会に付託して、審議を5回重ねてきました。その結果として今回、答申がまとまりました。2ページに基本的な考え方が示されているように、四つの方向性によって、それぞれの具体的なものが3章に短くまとめられていますが、詳細は別冊をご覧くださいと思います。

早川委員

当たり前のことなのですが、授業の中にITをぜひ取り入れてください。先生が黒板やホワイトボードに書いたり、シアター形式で一方向的に授業の内容を伝えたりする時代ではないと思います。もちろんタブレットもそうですし、かざせば音声や動画が入手できるQRコードなど、いろいろなIT機器を同時進行で使ってください。ITをもっと先生方に使っていただいて、音声としての英語、つまり知識ではなく、スキルを身につけるため、どんどん聞いて、たくさん話せるようなプラットフォームを作ってほしいです。プラットフォームの中で活躍する教える側の人々の能力をもっと上げてほしいと思っています。

先生方の努力は大変だとは思いますが、自分の英語の実力を測るテストがあるので、どんどん受けて、資格を取った先生には何かインセンティブがあるといいですね。世界的にみると、日本は悔しいけれども非常に後れています。世界に追いついて、さらに追い越せるような金沢の英語教育を目指しましょう。

新村学校指導課長

貴重なご意見、ありがとうございます。今年度、金沢型学習スタイルのモデル授業をDVDに撮ったものを作っています。英語のモデル授業も小中学校それぞれ撮って、全ての学校に配信しました。その二つのモデル授業はどちらもITを取り入れたものになっています。

大島委員

方向性の中で、1・2学年は英語活動ということで15分のショートタイムで行われると思うのですが、低学年の1・2年生は、英語が初めて導入されて英語が好きになるか嫌いになるかというかなり重要な部分だと思っています。この15分のショートタイムの英語活動は具体的にどういった内容のことをするのか、お聞きします。

新村学校指導課長

1・2年生とそれ以上の学年は少し違うのですが、1・2年生は導入ということで、英語の歌やゲーム、クイズなど英語を楽しみながら覚えていく活動がほとんどです。3年生以上は英語の時間があるので、その時間で習ったことの復習をショートタイムで行うことになっています。

田邊委員

英語の導入が1年生からとなり、しかも時間をしっかり使うということで、どのように時間を工夫するのか、かなり悩んだところがあると思いますが、ショートタイムを組み合わせて対応するのが今回の答申内容だと思います。その予想される効果というか、求められることにそれで十分見合う効果が得られるのかどうかという検討はありましたか。

それから、これは小中学校だけの問題ではないかもしれませんが、四つ

の技能を十分習得することが目指されています。特に中学校の取り組みのレベルアップを図らなければならないという気もするのですが、そのあたりの中学校の底上げというか、より一層の改善はこの検討の中でどのような議論であったのでしょうか。

新村学校指導課長

1 点目の時間の工夫については、ショートタイムは元々、朝学習の時間を週1時間使っているのでも、全く抵抗なく続けられると思います。今回問題になったのは、35時間、70時間になるところをどのように生み出すかということで、どうしても週のコマは30しかないのでも、そのうちの29コマを使って、英語の1時間は何とか生み出せるという中で取り組んでいます。それに加えて、ショートタイムは元々やっているのでも、抵抗なく続けられると思っています。

中学校については、方向性の4のところでも、検討委員会の中でも本当にたくさんのご意見を頂きました。例えば、小中一貫英語教育ということで、本市においてはかなり歴史があるので、そういったところをさらに生かして、お互い授業を見合ったり、小学校で習ったものを足した中学校のカリキュラムにしていくことを考えています。また、授業のスタイルも、小学校と中学校で統一していければいいと考えています。

田邊委員

小学校でかなり親しみを持っていたのに、中学校になるとレベルが違って、段差を感じることもまま聞かれますので、そのあたりも小中学校の連携を図って、興味を持ったものが伸びるような取り組みを中学校の方でも工夫していただきたいと思っています。

それから、ショートタイムはこれまでもかなり定着してきたと思うのですが、その効果というか、英語に親しむ大きなきっかけになる効果があるとするれば、時間数の問題もとても気になるのですが、ぜひそれを活用して取り組みを進めていただければと思います。

早川委員

算数は能力別に二つのクラスに分かれていますよね。英語も能力に格差があり、楽しくどんどんできていく生徒と、よく分からないと思いながら基礎ができないまま中学生になってしまう生徒がいます。中学校で時々ボランティア活動をしています。私たちの使命は、遅れている子どもたちを何とか1年生のレベルに持っていくことなのです。いかんせん時間数が限られています。地域にもっと生かされる人材があると思うのですが、人材不足というか、小クラスにならないのです。何とか英語に対しても二つのクラスに分けたり、能力別に教える方がどちらも伸びていっていいと思います。そのあたりも多分、議論の中に入ったと思うのですが、もう一回確認を取って、できれば少人数クラスにしてほしいと思います。

「英語なんか一生要らない」と思っている生徒たちがいるかもしれません。しかし、どんな世の中になるか分かりません。今の日本は平和なので、外国語を話さなくてもそれで全く大丈夫なのですが、将来は分かりません。そういったときに、いろいろな言語を話せて自分の意見を述べられることが、日本を守っていくことになると思います。

新村学校指導課長

習熟度別少人数については、加配の教員が入っている中学校で、英語について実施している学校があります。実情に合わせてそういったことは可能だと思っています。ただ、小学校についてはそういった加配は、県との絡みがあって配置することがなかなか難しい状況なので、今のところは複数体制、つまりインストラクターと学級担任、専科とのITを必ず行っています。そういった中で、今のご意見を生かしていければと思っています。また、低学年ではスクールサポーターを利用して、地域の英語が非常に堪能な方にサポーターとしてお手伝いいただいている学校もあるので、生かしていきたいと思っています。

丸山委員

ショートタイムの活用はとてもいいことだと思っていて、15分ですが、積み重なっていくと量としてはとても多くなります。ただ、学級担任による単独指導なので、何をしているかという把握がなかなか難しくなると思うのですが、その確認や報告は何かされていますか。

新村学校指導課長

45分の英語の時間は週1時間あります。例えばそれが火曜日になったとしたら、その次の水曜日の朝学習をショートタイムにする形の学校がほとんどです。各先生方は週の計画案を作っていて、その中でどういう内容をショートタイムで行うのかも記載するようになっているので、そうして把握しています。

○ 議案第3号 金沢子ども読書推進プラン2019について（図書館総務課）

（説明の概要）議案書3ページ。本市では読書活動を通じて、子どもが心豊かに健やかに成長することを願い、家庭や学校、地域などの各主体が取り組む読書活動の方向性や内容を示す「金沢子ども読書推進プラン21」を5年ごと改定することとしている。5年目を迎えた今年度、金沢子ども読書活動推進会議を4回開催し、プランの内容を見直し、2019年度から実施する新しいプランを策定してきた。

計画の目標は、「大人の意識啓発」、「子どもへの働きかけ」、「環境整備」、「人材育成」、「連携協力」、「国際理解」の6項目とし、現行の推進プランを踏襲する。行動主体は、家庭、学校等、地域、行政、企業となる。

行動主体ごとの主な取り組みについては、詳細は別添資料をご覧いただきたいが、議案書4ページでは主に新たな取り組みについて記載している。例えば家庭では、「家庭教育に関する指針『家庭で子どもを育むための8つのすすめ』を保護者自身が意識し、親子で読書を通じ、子供とともに積極的に学ぶ機会を増やすように努める」と記載した。この他、金沢市図書館で「親と子の読書ダイアリー」を活用した取り組みにより、親子の読書活動の普及拡大を図る。また、玉川こども図書館を再整備し、子どもの読書活動を総合的に推進する拠点としてハード・ソフト両面からの機能充実を図ることなどを記載した。また、家庭教育指針の実践に向け、家庭教育学級等での読み聞かせ等の実施や、地域学校協働活動における学校図書ボランティアによる活動の実施なども記載した。

推進体制については、金沢市子ども読書活動推進会議において、本プランに基づく各事業の点検・評価を行うとともに、各行動主体や読書関係団体との情報交換・情報共有を図りながら、連携強化とネットワークを形成することで、より一層の子ども読書活動の推進を図る。

情報発信については、読書推進につながるイベントチラシの配布の他、図書館専用ホームページを活用したイベントの開催案内、フェイスブックなどを使ってタイムリーに行う。

最後にパブリックコメントの実施結果である。1月22日～2月20日に募集し、7名から30件の意見を頂いた。主な意見としては、玉川こども図書館休館中の児童図書サービスの確保、新玉川こども図書館の機能・役割、幼児期から小・中・高校へとつながる読書推進といった意見があった。頂いた意見を受け、必要に応じてプランの内容の追加や修正を行っており、最終版として別添資料を添付した。

なお、本プランについてこの会議でお認めいただければ、このプランに基づいて各事業を実践していきたいと考えている。

野口教育長

4ページの(4)に出ている内容が新たな部分と考えてもいいということですね。

村田図書館総務課長

そうです。

木村委員

私は先日の子ども読書推進プラン会議にオブザーバーとして立ち会ったのですが、とても活発な意見交換がなされ、皆さんそれぞれ金沢の子どもたちのことを考えていらっしゃるということを感じました。いろいろな取り組みを考えていて、本当に素晴らしいと思いながら感激していたのですが、子どもたちが図書館へ寄って家へ帰るといふ、そこが居場所のようになっているというのを、いろいろな思いで聞いていました。

「新聞を取らない家が多く、図書館は多くの新聞を読めるので、そこへ行って心地よい時間を過ごしている子どもが多い」、それから「玉川こども図書館ができたことで子どもたちが図書館へ足を運ぶことがとても増えた」とおっしゃっていて、それは大変いいことだと思いました。ただ、それぞれの図書館への希望としては、各館の特徴を生かしたプランをもっと発信してほしいという意見が多く出ていたことだけはお知らせします。

村田図書館総務課長

昨日の会議でもさまざま意見がありました。例えば、子どもたちが下校時に気軽に図書館へ寄って、安心していただけるような場所であるというご意見も確かにありました。これまでの本を貸すだけの役割ではなく、様々な市民の皆様の交流の場、やすらぎの場など、いろいろな機能が求められていると思いますので、図書館でどのような機能を提供できるかということも日々検討していきたいと思っています。

早川委員

図書館が話題にあがると、毎回必ずお話しするのですが、前教育委員の河野先生から学んだことがあります。ハンディキャップを持つ子どもたちは、それぞれのハンディキャップによって心地よく読むことのできる本が異なります。その本をハンディキャップを持っていない子どもたちにもっと知ってほしいです。例えば、お手伝いとしてポップを作ってあげるなど、お互いにこういうことが大変なのだな、こういう本が必要なのだなと分かってくれたいです。大人になってから、みんなが暮らすコミュニティで何をしなければならないのか、何を傍観すべきなのか、いろいろなハンディを持っている人との付き合い方が自然に身に付く場になったら、どんなにいいでしょう。

「読書」というと、イメージとしては本を開いて文字を追うことが多いと思うのですが、子どもの図書館なのだけれども、高齢者やブラインドの人向けのようない、音声で楽しむ部門もあっていいのではないのでしょうか。市販されているのか、DVD になっているのか、貸し出しができるのでしょうか。また、自分が本の中に入り込んでコスチュームを着ることができたらもっといろいろな可能性があるのではないのでしょうか。いろいろと多機能の図書館になってくれたら、こども図書館がきっと、いい人材育成の場になると思います。

村田図書館総務課長

まず1点目ですが、別添資料19ページの「環境整備」の黒丸に、「LLブック等、障害のある子供に対応した資料や」とあります。それから、太字の部分はパブリックコメントを頂いて追加した部分なのですが、「さまざまな課題に直面している子供への情報提供や支援につながる資料を整備する」と記載しています。このような資料を整備することにより、障害のある子ども、学習障害のある子どもでも楽しめるような本を今後整備して、そういう方でも気軽に図書館に寄っていただくことで、一般の方との交流が生まれていけばと思っています。

2点目の音声資料については、今でもこども図書館の1階に音声資料を視聴できるブースを設置しており、大変好評で、いつ行っても席が埋まっている状況です。新しい図書館でも導入を検討していきたいと思っています。また、いろいろなメディアを使った資料形態が今後予想されますので、そういうものをどういう形で図書館に導入していきけるのかも検討してい

たいと思います。

岡委員

テレビが普及したり、いろいろな情報が世の中に氾濫している中で、読書はなかなか行われなくなってしまっているのではないかと心配していますが、取り組みの一つに「親と子の読書ダイアリー」というものが大人の意識啓発、子どもとの関わりで提案され、実践しておられると思います。この状況についてご説明いただけますか。

村田図書館総務課長

「親と子の読書ダイアリー」は、親子で本を読んだ感想を中に記入していただくもので、最初に子どもが書いて、それに対して親御さんも読んだ感想を書いて、その本について語り合う取り組みをしているところです。全部で20冊の感想を書けるようになっていますが、既にダイアリーを3冊、4冊持っている方もいらっしゃいます。個人で受け取りを希望される方が1000人ぐらいいるのですが、学校からも問い合わせがあって、学校ぐるみで取り組みを行っている学校もあると聞いています。来年度は学校や、場合によっては保育所、保育園、幼稚園などにも積極的に紹介して、取り組みを進めていければと思っています。

岡委員

子どもだけでなく保護者もそういったものを通して一緒になって読書する習慣を、もう一度社会の中に普及していただけたらいいのではないかと思います。映像などは一方的に入ってくるばかりですが、読書は自分がその内容に関心を持って深く入っていくことにもなりますし、自分から向かっていくことなので、とても大切だと思います。私も年を取ってからたくさん本を読むようになりましたが、子どもたちにもぜひ読んでいただきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

早川委員

NHK テレビで、ある漫画が話題になっていました。学校の制服はなぜ女の子がスカートで、男の子がズボンなのかというのをテーマにしていました。その漫画の力が大きくなって、東京のある区を動かし、新しい制服ができました。女性は、ブレザーの下はパンツとスカートのどちらでも選べるようになっていきます。1冊の漫画本なのですが、そういう大きなうねりになって世の中を動かしていくのはすごいと思いました。こんな本は漫画でも、保護者がきっと読みたいと思います。子どもたちはもっと読みたいだろうと思います。こんなふうに人気が集まる時にたくさん本を用意するのはとても大変だと思います。実際には漫画も図書館に取り入れているとお聞きしました。例えば今話題のその漫画は、こども図書館には何冊ぐらい用意してあるのでしょうか。個人的興味です。

村田図書館総務課長

ご紹介いただいた本については蔵書状況が分かりませんので、調べておきたいと思います。

早川委員

すごい大ヒットで、もしかしたら1冊取るのも難しい状況かもしれないですね。話題の本を若い方になるべくタイムリーに読ませてあげたいと思っています。

村田図書館総務課長

人気のある本については、副本を一度に10冊、20冊とそろえるわけにはいかないのですが、数冊は各図書館で持つようにしています。ただ、どうしても予約が10人、20人という状況にはなるので、それは予約の状況も見ながら蔵書をそろえていきたいと思っています。

早川委員

常にアンテナを張っておいてください。

田邊委員

「計画の目標」にある「大人の意識啓発」が誘いのための一番の窓口に

なると思いますし、そこに書いてあるように、それは「大人の責任と役割」なのです。大人が責任を持って勧めていかなければならないというのはとても重たい表現なので目に留まるのですが、大人の役割にとどまらず、それが責任なのだというメッセージはとても重たく響いてこのプランを拝見しました。

お尋ねしたいのは、こういう計画を立てて取り組みをされますが、それを点検・評価するサイクルが作られていますよね。点検・評価は、取り組みがたくさん列挙されているので、それらの取り組みがどれだけ実現されたのかということ(point check)を点検・評価する運びになると思うのですが、そういう読み取りでよろしいですか。

村田図書館総務課長

別添資料 30 ページに書いてありますが、金沢子ども読書推進プランについては、子どもの読書推進に関わる専門の方々にお集まりいただいて、金沢市子ども読書活動推進会議の中で練り上げてきました。この会議は例年 2~3 回程度開催していて、会議の 1 回目に前年度の取り組みの全体のまとめをして、それを点検・評価する場面があります。そのときに出た意見を次の年度、場合によってはその年度に反映できるものもあるかと思いますが、それをまた次の施策に反映するなど、PDCA サイクルの中に組み込めるようにして点検していく形を取っています。

田邊委員

プランの中にたくさん取り組み目標があって、例えば学校についてであれば、小中学校に関して 8、9 ページにこんな取り組みをすること(implementation)がずっと列記されています。これらの一つ一つを点検・評価する項目として取り上げられるのか、その中でもこれだ(implementation)というものを目標設定して取り組むのか。そのあたりの点検・評価は簡単なことではないような気がする(implementation)ので、目標をたくさん立てて取り組むのはいいのですが、それがどれだけ遂行されたのかをどのように評価しようとしているのでしょうか。

村田図書館総務課長

各目標については数値目標を設けてはいないのですが、会議中での点検・評価については一応きめ細かく、目標一つ一つについて分析しています。ですので、その中でも重点的に取り組むべきものもあると思いますので、そういうところは少し注目して評価しているのではないかと思います。

田邊委員

ぜひ進捗状況を検証しながら、次の改善に取り組んでいただければと思います。一方で、大人の責任なので市を挙げての部分もあると思うのですが、子どもを読書に誘っていくようなメッセージ性のあるようなことも考える必要があると思うのです。もちろんプランを作ってそれを丁寧にやっていくことも大事ですが、読書がいろいろないいことにつながっていることを打ち出すようなメッセージがあると、触発されるような窓口になる気もしますので、そういうメッセージ性についてもぜひ検討いただければと思います。

村田図書館総務課長

今頂いたご意見については、もしかすると点検・評価をただでとどまっている部分があったのではないかと反省しています。評価した結果を、例えばホームページや図書館内の掲示などで皆さんに知らせていくような取り組みができないか、来年度考えていきたいと思っています。

丸山委員

根本的なところになるかもしれないのですが、なぜ読書がいいのかというところからまず動機付けしなければならないと思います。今は便利な社会なので、子どもたちも新聞を読むよりネットニュースを見ていけばいいのではないかという考えになります。スマホやタブレットを何時間も見ているような子どもが多い中で、なぜ読書がいいかという動機付けはされて

いますか。

村田図書館総務課
長

まさにご指摘いただいた取り組みの一つが、先ほどの読書ダイアリーかなと思っています。まずは親と一緒に本を読む姿勢を子どもに見せることが大事ではないかと思えます。どれだけ「読書はいいよ」と言っても、実際に読む取り組みを親が率先してやらないと、子どもには伝わっていかないと思うので、そういった取り組みをスタートにして、今後また読書の楽しさ、面白さを伝えられるような事業を来年度以降も検討していきたいと思えます。

○ 議案第 4 号 2019 年度 金沢市教職員研修の基本方針（案）について（教育プラザ）

（説明の概要）議案書 7 ページ。基本方針の前にまず、今年度の教職員研修の状況について簡単に説明する。1 の実施状況の表にあるように、今年度の教職員研修は講座数を昨年度から 14 講座削減し、165 講座実施した。延べ受講者数も 776 人減り、7,095 人となっている。講座を精選する一方で効果的な研修方法を工夫し、プラザ等で開催する校外研修においては（1）～（4）について、引き続き講義型から演習場面を設定した研修とした。新たに、3 年目の若手教員に対して集合型から派遣型に重点を移し、学校内において先生方一人一人のニーズに応じて人材育成に取り組んできた。以上を重点に研修を実施した結果、受講者の満足度評価は表のとおり、高い満足度となっている。

今年度の実施状況を踏まえ、2019 年度の基本方針（案）を定めた。金沢市教職員研修の基本的な考え方としては、学校を取り巻く諸課題に対応できる豊かな専門性、幅広い社会性、実践的指導力等、教職員に求められる資質・能力と指導力の育成を目指す教職員研修の実施を図るとともに、今ほどあったように、各学校の校内研修の充実や日々の教育実践での人材育成を図ることと考えている。

2019 年度金沢市教職員研修の重点としては、（1）～（5）の 5 項目を重点として取り組むことを考えている。（2）にあるように、現在は教員の大量退職・大量採用による急激な世代交代の時期に当たり、全ての公立小・中・高等学校において、若手教員に中堅・ベテラン教員の経験や知識を継承させ、校内で早期の人材育成を図る若手教員早期育成プログラムが県内一斉に実施される。それに伴い、校内における組織的・体系的な研修の充実をさらに図る。また、引き続き教職員が本務に専念するための時間を確保するため、研修講座の内容、実施時期や形態等を見直し、校外研修の開催数を 15 講座、受講者定員を 607 人、約 7%削減するとともに、夏季休業中に連続して研修を実施しない日を 8 月 10 日（土）～8 月 18 日（日）の 9 日間と、8 月 21 日（水）から夏期休業終了までとし、今年度よりさらに 2 日拡大した。

野口教育長

「研修の重点」の五つの柱に尽きると思います。育成指標に基づくキャリアステージに応じた研修、若手育成の研修、新学習指導要領への対応、今日的な課題、それから今一番話題になっていて、大事にしなければならない、教職員が本務に専念する時間を確保することに尽きるのだろうと思っています。際限なく研修を減らすわけにいかないなので、歯止めは必要だと思います。

岡委員

教育長が言われたように、教職員の本務に専念するための時間と働き過ぎとの兼ね合いで、つい心配してしまいます。確かに研修もとても大切ですが、忙しくなってしまうので、その辺のバランスについてどのように考えていますか。

熊谷研修相談センター
所長

先生方が学校で子どもと向き合える時間や、教材を準備する時間を大切に考えていて、校外研修は学校から離れて参加していただくのですが、なるべくシフトを校内研修の方に移動しています。今年度も 3 年目の先生に

校外に出てきていただく集合型研修ではなく、職員が学校に訪問して、学校で先生方に指導・助言を行ったり、校内で学校の先生が学びたいニーズに対して講師を派遣したりして、校内研修に重点を置くようにしています。

それから、昨年度から2年続けて、夏季休業中に連続して研修を入れない日を設定しています。これについて先生方の感想を集約しているのですが、やはり連続して研修がないため、「リフレッシュできた」「休みを取りやすかった」という感想をたくさん頂いています。

早川委員

以前にも伺ったことがあるのですが、外部講師の興味深いお話を聞きたかったのに、学校行事などで行けなかったときのフォローアップというか、映像でもう一度聞くことができる体制は大丈夫ですよね。

熊谷研修相談センター所長

先生方がインフルエンザや麻しんなどいろいろな状況で研修に来られない場合は、講師の先生に依頼して、その目的だけでビデオを使えるように録画して、別日に担当職員と一緒にもう一度、講義を再生させてもらえる形を取っています。

○ 報告第4号 統合小学校の校章、校歌等について（教育総務課）

（説明の概要）本年4月に統合してできる犀桜小学校、犀川小学校の校章、校歌等については、かねて各地域の統合協議会で協議を重ねてきた。それにより、校章については1に記載のとおり、両校ともデザインを金沢美術工芸大学に委託し、寺井剛敏教授、畝野裕司教授の監修の下、それぞれデザインを頂き、その上で統合協議会で協議し、記載のデザインとした。犀桜小学校の方は「桜」を中心に配置し、犀川の流れを頭文字の「S」で表現したデザインである。犀川小学校は犀川、浅野川の流れと医王の山々の峰の形状を校名の「犀」の文字と一体化させたデザインである。

校歌等については、まず犀桜小学校の校歌は、作詞家でシンガーソングライターの小椋佳氏にお願いした。小椋さんは過去に多くの学校の校歌を手掛けている。また、本市の市民憲章の歌を作られたほか、現在の菊川町小学校前には、市民憲章とともに歌詞が書かれた看板が設置されているなど関連があることから、今回依頼した。また、犀川小学校の方は、校歌は統合協議会の中で現在の犀川小学校の校歌を使うと決定したが、今回の統合を機にそれぞれの子どもたちが今後校歌とともに歌い継いでいく愛唱歌を作ることが決定された。そのため、愛唱歌の作詞を作家の林真理子氏、作曲は三枝成彰氏に依頼した。この両名とも、先ほど同様、数多くの校歌等の制作実績があり、特に三枝さんは昨年9月に犀生中、犀川小でクラシック音楽の魅力を伝える特別授業を行っており、こうした縁からもお願いした。校歌等については、間もなく完成する予定で、4月初旬に予定している開校式の場で披露したいと思っている。

開校式は、犀桜小学校が4月4日午前10時から、犀川小学校が4月5日午前10時からそれぞれ挙行するので、皆さま方にもぜひご出席を賜りたい。

（特になし）

○ 報告第5号 特別支援教育サポートセンター（仮称）整備基本計画について（教育総務課）

（説明の概要）議案書13ページ。この計画は、自閉症や情緒障害等の児童生徒へのより専門的できめ細かな支援の実施や充実など、特別支援教育に関する拠点施設の設置について平成29年2月にまとめられた「特別支援教育サポートセンター（仮称）整備基本構想」を踏まえて作成したものである。

整備方針は、本市の重点戦略計画において既に示されているが、整備場所は現在の中央小学校芳齋分校とし、サポートセンターとともに小中学校の特学分校を一体的に整備する。また、本校である中央小学校および移設予定の中学校にもそれぞれ、特別支援学級を設置予定としている。

施設整備に向けた考え方としては、福祉的な視点も取り入れた環境整備に向け、ゾーニングや

規模などについて十分検討することとし、整備に当たっては周辺住環境に支障のないよう、高さや配置等にも十分配慮することや、子どもたちが落ち着いて学校生活を送ることができるよう工夫することとしている。この上で、特別支援教育サポートセンター（仮称）については、きめ細かな支援のための設備や人員を十分に検討し、実践的な研修や教材開発・研究のための広さを確保するとともに、相談室等の設置を検討する。特学分校については、必要な教室等の確保、柔軟な活用策を検討するとともに、必要となる教材教具の収集や日常生活に直結した活動が可能な教室の設置等を行う。

施設概要は、サポートセンターと特学分校部分が4階建、延床面積約4,500㎡、体育館は約540㎡、運動場は約3,500㎡としている。今後できるだけ早期の整備を図れるよう、関係地域の方々と協議していきたい。

野口教育長	基本構想までに随分時間をかけて、丁寧な議論を重ねながら作ってきました。それを基に教育総務課で基本計画をまとめていただいたので、これから準備をさらに加速させていくことになろうかと思えます。
田邊委員	この基本計画に基づいて順次、実施に向けたスケジュールが立っていくと思うのですが、立ち上げはいつごろを予定していますか。設備や人員、組織構成のあたりのめどは、どれぐらい先のスケジュールになっているのでしょうか。
加藤教育総務課長	芳齋分校の地で建て替えるのが基本的な考え方ですので、まずは芳齋分校を解体した後に建築という形ですが、それ以前に設計業務が入ってきます。新しい建物の基本設計、実施設計に各1年、設計業務でどうしても2年はかかります。また、同時に解体工事をしたところで、新しい学校の建築に2年程度かかるため、2023年度以降と考えています。

○ 報告第6号 金沢市学校給食費懇話会の検討状況について（教育総務課）

（説明の概要）議案書15ページ。本懇話会の開催については、前回の教育委員会議でもご報告申し上げたところである。物価の変動や消費税率の改定、他都市の状況などを踏まえ、今後の学校給食費の在り方について検討してきたが、去る2月13日に開催された懇話会で、これまでの懇話会での協議等を通して検討結果をまとめ、今後意見書を提出することとした。

現在、小学校の給食費は1食当たり250円、中学校は293円だが、検討結果としては1に記載のとおり、①小中学校ともに、給食費は現在の価格のまま据え置く、②今後の物価上昇など社会的状況等を踏まえ、必要に応じて、5年を待たずに懇話会を開催し、学校給食費の改定について協議検討する。懇話会の開催状況については、2に記載してある。

今後、懇話会から提出される予定の意見書の趣旨や内容などを十分踏まえ、私どもとして最終的に決定していきたいと考えている。

野口教育長	報道等によると、値上げをする自治体もあれば、据え置くところもあり、いろいろな考え方で進んでいるようですが、金沢市においては今回、小中ともに現在の価格を据え置き、今後の社会状況等を踏まえながら、5年を待たずに、必要に応じて懇話会を開催し、改定を検討するという結果になりました。
-------	---

○ 報告第7号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果（平成30年度10～12月分）について（学校職員課）

（説明の概要）議案書17ページ。3カ月ごとに報告しており、今回は10～12月の集計結果および昨年度との比較を報告する。対象者数、対象職種は4月30日現在のものである。

3 時間外勤務時間の平均については、10～12月の時間外勤務時間の1カ月当たりの平均は小学校で49時間59分、昨年度同時期比2.1%減、中学校で63時間38分、昨年度同時期比12.0%減となっている。その結果、4～12月の時間外勤務時間の1カ月当たりの平均は小学校で46時間16分、中学校で64時間49分となり、これまでの3カ月ごとと同じように昨年度同時期と比較して減少している。また、10～12月の週休日・休日の時間外勤務時間は昨年度同時期と比較して、中学校では25.2%と大きく減少している。小・中学校で比較すると、勤務日における時間外勤務時間の差は小さく、週休日・休日の差は大きい傾向になっており、この傾向はどの時期においても同じである。

4 時間外勤務時間の分布については、10～12月の1カ月平均の時間外勤務時間が、長時間の過重業務とされる80時間を超える教職員の割合は、小学校では「100時間超」の2.7%と「80～100時間」の7.6%を合わせた10.3%であり、昨年度同時期比0.6ポイント低い。同じく中学校では28.8%となっており、昨年度同時期比11.0ポイント低くなっている。昨年度同時期と比較すると減少しているが、依然として80時間以上の時間外勤務となる教職員の割合が小学校で10.1%、中学校で33.2%となっている。

5 職種別の時間外勤務時間の平均も、昨年度同時期比で減少しているが、依然として小中学校の教頭が多くなっている。

6は10～12月の職種別・年齢別の集計結果である。職種別では、小学校は五つの職種の時間外勤務時間が昨年度同時期比で増えている。中学校は事務職員を除く全ての職種で昨年度同時期より減少している。また、年齢別では、小中学校ともに「30歳以下」の教職員の時間外勤務時間が昨年度同時期比で減少しているものの、年齢別の中で最も多い傾向は変わっていない。また、小学校では、「61歳以上」の再任用教員を除くと年代による差はあまり大きくないが、中学校では年代が若くなるほど時間外勤務時間が多い傾向が続いている。

あと1カ月余りで年度を終えるが、取り組み初年度の成果と課題をしっかりと検証し、教職員が本務に専念するための時間の確保に向けた取り組みを着実にを行い、時間外勤務時間の減少に取り組んでいく。

野口教育長

ざっくり言うと、中学校で部活動を行わない日が定まっているので、かなり進んでいると思いますが、小学校の方が予想以上にまだ進んでいないという感想を持ちました。

田邊委員

こまめにデータを整理していただいて推移が分かるのですが、例えば小学校の10～12月は49時間59分と50時間を切っています。全体の平均がこうなっているということは、恐らく一人一人の先生方が丁寧に時間をチェックしながら全体状況が把握されているのだろうと思います。

全体的には徐々に減りつつありますが、多分どこかでストップしてしまう気がするのです。では、ストップしたところで状況が良くなったかという、依然として勤務時間が長い傾向が続くような気がしますので、そこをどう突破していくのか、どういう手立てが次に必要になるのかを考えないと、状況は変わらないと思っています。そうすると、現状でもさまざまある取り組みの中で、効果という意味での手応えがあった取り組みをぜひ他の学校にもモデルとして伝えるようなこと、効果モデルを把握してそれが少しでも他の学校に広がるようなことも必要だと思います。どこかで次の手立てにつながるようなことを工夫していかないと、恐らく全体状況としては変わらないような気がします。

国でも提言や答申が出されていますが、水膨れの状況なので、それが教員の勤務状況として果たして健全なのかといわれると、どうしても健全とはいえない状況があります。答申の中でも最終的な取りまとめとしては、もう少しそこを切り開いていかないと、教員として仕事をしたいというふうにならなくて、次の人材に抵抗感をどんどん生んでしまうことにもなり

かねません。なので、教職の魅力を損なわないためには次なる手立てを考えていかないと、若い人材が教員にという流れに掉さず事態になってしまわないかと危惧します。

一つは、今のような好事例を把握して、ぜひ他の学校でも応用するという提示の仕方もあるでしょうし、各校での校務が特定の人に集約されがちで教員間に適正に分担されていない場合には、先生方の時間の健全な持ち方を学校ごとに工夫していくことが必要だと思っています。例えば体育祭なり文化祭なりの行事の時間を、一人の先生や複数の先生が負わないような校務分掌の持ち方など、もう少し立ち入ってどんな取り組みが可能なのかをぜひ検討していただきたいと思います。いい知恵はありませんが、次なる手立てを考えないと、どこかで改善の効力もストップしてしまわないかと懸念しています。

羽場学校職員課長

この取り組み方針は本年度が1年目ということで、数字的に見ると成果が表れていると思っているのですが、2年目、3年目も同じような減少率になるかというところ、私も疑問に思っているところがあります。学校ではまさしく1~3月に、さらなる取り組みの推進ということで来年度の行事計画の見直しや準備期間の縮減を検討しており、来年度はさらにこの取り組みが進むように考えています。

また、私たちも今年度1年間で得た成果を各学校に発信していきたいと思っています。例えば、学校からは、会議資料をペーパー1枚に全て収めて複数枚にしないようにする、あるいは教材の共有がパソコン等に保存することによって非常に進んでいると聞いています。また、各学校に先日取ったアンケートでは、学校長に「あなたの学校で、業務適正化の意識をして働いている教員が8割以上いますか」と聞いたところ、六十数パーセントの学校が「そう思う」と答えており、こういったところももう少し上昇するような取り組みをしていきたいと思っています。

また、教育委員会の取り組みとして、学校閉庁日や教員業務補助、あるいはコミュニティ・スクール等については、これまで以上に推進していきたいと考えています。またよろしくお願ひします。

野口教育長

まずは1年間やってみて、その検証をするということですね。前に校長会議でもお話ししましたが、来年度まずは100時間超えの先生をなくしていかないと先に進まないの、まずここを減らしたいと考えています。また事務局の皆さんのお力添えを頂きながら進めていきたいと思っています。

○ 報告第8号 金沢市立玉川こども図書館の休館について（図書館総務課）

（説明の概要）議案書20ページ。中央地区における教育施設再整備事業に伴い、玉川こども図書館は本年4月1日から休館することとなる。休館期間は、2019年度から2021年度までの3年程度を予定している。休館中の対応としては、玉川図書館に新たに児童図書コーナーと「おはなしの部屋」を開設し、親子向けのおはなし会を行う。また、泉野図書館や金沢海みらい図書館でも、これまで以上に児童図書サービスの充実に努める。なお、玉川図書館の児童図書コーナーについては、4月下旬ごろの開設を予定している。

今後の周知・広報としては、市民や利用団体を対象に新聞広報、図書館ホームページ等を活用し、情報提供、情報発信を行うなど丁寧に行っていく。

（特になし）

○ その他（1）平成30年度金沢市立工業高等学校卒業予定者の進路状況について

（説明の概要）今年度の卒業予定者は237名で、うち就職希望者は149名、(62.9%)、進学希望

者は 88 名（37.1%）である。なお、就職希望者 149 名全員が内定を頂いており、100%の内定率となっている。このうち 127 名（85.2%）の生徒が地元県内の企業や公務員などに採用予定である。一方、22 名が県外企業に内定しており、トヨタ自動車、本田技研、デンソー、アイシン精機、熊谷組といった大手企業などに採用の内定を頂いている。主な就職先の詳細については資料のとおりである。また、進学については、進学希望者 88 名のうち国公立や私立大学等に 79 名（89.8%）の進学が決まっている。今後も本校の教育の根幹である金沢型工業教育モデルの実践を通し、出口戦略であるキャリア教育のさらなる強化を図り、生徒全員が希望の進路に進めるよう学校全体で取り組んでいきたい。

野口教育長

就職希望者の内定率が 100%で、良かったと思います。進学希望者ではまだ進学先が決まっていない生徒がいますが、今まさに入試の真っ最中でもあるので、全員が進学できたらいいと思っています。今週 3 月 2 日（土）10 時から卒業式もあります。いい思い出をたくさん作り卒業してもらえればとてもうれしいです。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名

教 育 委 員 _____ 署 名

（丸山委員）

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第 5 号 金沢市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委員の委嘱について（歴史都市推進課）

審議結果についても非公開

以 上